

「何でもやろう会」(村上保会長、会員 67 人) というユニークな名称の団体は、県外への山旅から皇居への勤労奉仕、自然保護活動、ボランティア活動まで、まさに“何でもやってしまう”会です。

この会の活動は、昭和 60 年頃の見前地区の公民館活動「男の生活学講座」から始まりました。

講座が終わった後、このまま別れるのは寂しいので、山歩きやキャンプ等の野外活動を行うサークルのような集まりを作り、自主活動講座という考えで活動しました。

その後、平成元年に 30 数人の会員で、会としての組織を作りました。当初は、男性が大半だったので「野郎会(やろうかい)」という発想もありましたが、女性も二人いたので、結局「何でもやろう会」ということに。今は、女性会員も多く、会員総数 67 人のうち、男女比



抱負を語る
村上保会長

は概ね 6 対 4 という割合です。会の目的は、活動を通して、生き甲斐、親睦、充実を求め、地域社会への関心を深めるということにあります。

今年の活動は、春の櫃取湿原散策、夏の知床、富士登山、秋には三石登山、皇居勤労奉仕(5 回目)、焼きイモ会、冬には恒例の忘年そば打ち会等、まさに会の名称にふさわしいバラエティーに富んだ行事が計画されています。遠距離の旅行は、安上りのバスを利用するなど村上会長の工夫がこらされ、多くの会員が参加できるように配慮。尾瀬にはこれまで 10 回程行っています。

今後の抱負としては、これまでの経験を活かし、盛岡市が提唱している「地域協働」という活動への展開も検討したいとしています。

村上会長は、「会員の年齢は上がってゆくが、会員から『おもしろかった』と言われる活動を続けたい」と話しています。(同会へのお問い合わせは村上会長 019-638-3061)



昨年の皇居勤労奉仕で上京した際に国会議事堂を見学

岩手県高齢者社会貢献活動サポートセンターからのお知らせ

「いわてシニア通信員を引き続き募集しております。」

当センターでは、引き続き「いわてシニア通信員」を募集しています。「いわてシニア通信員」として当センターへ登録頂き、シニアならではの情報をお寄せください。「新緑の季節になり思わずシャッターに収めた」、「活動団体の活動予定を案内したい」、「ある出来事で昔懐かしい岩手を思い出した」など様々な情報をお待ちしています。

「いわてシニア通信員」からいただいた情報は当センターのホームページ内「いわてシニア便」に掲載します。シニアの情報交流の場として多くの方々にご利用いただきたいと思います。

「いわてシニア通信員」の登録について、その他お問い合わせは、岩手県高齢者社会貢献活動サポートセンターまでご連絡ください。

企画・発行/岩手県高齢者社会貢献活動サポートセンター 平成 23 年 6 月 10 日発行

〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通 1-7-1 アイーナ 6 階 tel 019-606-1774 Fax 019-606-1765

E-mail koreisha-hfk@aiina.jp URL <http://www.aiina.jp/advancedage/index.html>

特定非営利活動法人いわての保健福祉支援研究会が岩手県から受託運営しています。

〒020-0021 岩手県盛岡市中央通 3-7-30 tel 019-604-8862 URL <http://www.hfk.or.jp/>



k a d a r u

※「かだる」という言葉は、岩手県の方言で「参加する」、「集う」、「加わる」などを意味します。

この度の東日本大震災で被災された皆様に心からのお見舞いを申し上げます

輝く シニア

復興の音色 被災地で『蓄音機喫茶』

ジャズ喫茶「h.イマジン」店主 富山勝敏さん(陸前高田)

「ジャズを聴きに来るだけでなく、蓄音機から流れる昔懐かしい音楽で古き良き思い出を語り、高齢者がなごむ喫茶店を再々開きたい」。ジャズ喫茶「h. イマジン」の店主の富山勝敏さん(69 歳)は、避難所で蓄音機のハンドルを回しながら語りました。

出身は福島県郡山市。東京の会

社に長年勤め、第二の人生を模索していた頃、インターネットで見た碓氷海岸の風景が一目で気に入って、I ターンを決意。大船渡市のログハウス内で一人楽しみ始めたのがきっかけで 2003 年、同市内で本格的にジャズ喫茶を開店しました。しかし、昨年 2 月、その店は火事により全焼。知人等の援助

もあり、昨年 12 月、陸前高田市の旧高田町役場庁舎を改装して新しいスタートを切り始めたばかりの 3 月 11 日、東日本大震災による津波で店は流され、また振り出しに戻されました。

そのことが、テレビ等で報じられ、偶然その番組を目にした東京の音楽制作者の方が手動式蓄音機を寄付。また、国内外からレコードが多数寄付されています。「岩手にはお世話になった。自分が動くことで皆さんに喜んでほしい」。そのような思いからこの蓄音機を避難所へ持ち運び『蓄音機喫茶』を始めました。昭和初期に輸入された蓄音機から流れる音は雑音が混じり、肉声にも似ていて郷愁を誘います。『蓄音機喫茶』ではコーヒーを振る舞い、約一時間、『雨に唄えば』、『赤いランプの終列車』、『お富さん』など往年のヒット曲を流します。

『蓄音機喫茶』は気仙地区の避難所で行っているが、要請があれば別の地域にも出向きたい。また、蓄音機で流す曲は昔懐かしい曲ばかり。高齢者福祉施設にも要請があれば行きたい。高齢者の方々の人生の労をねぎらってあげたい」と語っています。

現在、大船渡市の知人宅に身を寄せている富山さんは「店は流され、再々開の予定がたたない。しかし、こうやって活動する中で、また店を始めるきっかけになってほしい」と今後への希望を膨らませています。富山さんへの連絡先 090-3527-0700 メール tomiyama.kats7@ezweb.ne.jp



▶ 震災復興支援で活躍するシニアボランティア

震災復興に向けて シニアボランティアの活動

東日本大震災からの復旧復興に向けて、各方面から物心両面にわたる支援が届けられています。ボランティアの方々も、県の災害ボランティアセンターの集計によれば、5月31日現在で、延べ9万3千人を受け付けています。

平成21年に、内閣府が、60歳以上を対象として行った調査によりますと、「困っている世帯に手助けしたい」と考える者は8割に上る一方で、実際に「手助け」をしている者は3割に止まっており、高齢者の気持ちと実行動にはギャップがあるとされていました。

しかし、県ボランティアセンターの担当者のお話では、シニアのボランティアも数多く参加しており、5月半ばの時点で約2~3割はいるのではないかとのことです。内閣府調査で示された潜在的なボランティア志願者が顕在化したという側面も考えられます。

また、マスコミなどでは無縁社会という言葉が使われましたが、震災対応での地域社会の結びつきが報道されるにつれ、一律に無縁社会という言い方をすることに反省の念を示す学者もいます。

県の社会福祉協議会（ボランティアセンター）では、瓦礫処理や家の泥出しなどの作業のためのボランティアバスを運行しています。

筆者は5月17日のバスに同乗しました。この日は、ボランティア80名が陸前高田市の米崎小学校近辺の水田での瓦礫の撤去作業を行いました。事務局によると80名のうち昭和25年以前生まれの高齢者は16名で2割。この日は県外からの参加者がおおむね3分の1で関東、関西のほか北海道、北陸、中部地方からの



ボランティアによる瓦礫撤去作業（陸前高田市）

参加者もありました。

参加者のうち、シニアの方々にお話を伺いました。
及川榮一さん（72歳）は、子息が2月のニュージーランド、クライストチャーチの地震で被災。物資の補給などの支援活動をしていましたが、東日本大震災の発生に伴い、子息からは、地元の県内でのボランティア活動を勧められたとのこと。4月に新聞でボランティアセンター（県社協）の募集広告を見て参加するようになりました。今日で4回目。週に1回程度でも、細く長く続けたいと話しています。

また、及川さんに誘われて、この日初めて参加した澤藤善正（73歳）さんは、山歩き仲間の中に今回の震災で家を失った人もいて、義援金だけでは済まないような気持ちがあった。できることがある限り、続けたい、と話していました。



作業に励む
及川榮一さん

更に、今日で9回目という金森丕彰さん（69歳）は、「インターネットで個人でもボランティアに参加できることを知った。年齢相応にできることをやりたい。日ごろスポーツをやっている体力もある。平日を主体に参加している。」と話していました。

なお、5月20日、釜石市災害支援ボランティアセンターで、釜石市社協の矢浦事務局長からお話を伺いました。ボランティアとして参加している60歳以上の高齢者は、この日の受付では、95人のうち、17人ということでした。約20%という数字は、県社協の受付の場合と概ね同じ割合です。
これからは避難所や仮設住宅での話し相手が必要になるので、高齢者の対応としては傾聴ボランティアなどの需要が高くなるのではないかと話していました。

地域の話

■ベルガーディア鯨山（大槌町） 突然、会えなくなった人へ想いを伝えて「風の電話」

大槌町の浪板海岸を望む鯨山のふもとに「ベルガーディア鯨山」があります。主宰しているのは佐々木格（いたる）さん（66歳）。54歳で早期退職し、仕事で大槌に来ていたことで海の眺めが良い場所に住み始めました。「アンティークな田舎づくり」を目的に、自宅の敷地を整備し、工房やコテージ、ロックガーデンなどを造りました。その敷地内に震災を機に「3.11 メモリアルガーデン」を造り、「風の電話」を設置。電話機、電話ボックスは不要になったものを昨年譲り受け、装飾をほどこし、今年の三月末に完成。『突然、会えなくなった方への想いを伝える空間』という目的があります。回線は繋がっていません。震災により突然、肉親、友人、知人を亡くした方が、故人へ何かを話したい場として使ってほしい」と語っています。

■金田一勝太郎さん（遠野市） 演奏やマジックで13年間施設を慰問活動

金田一勝太郎さん（78歳）は、13年前に家業を長男に引き継ぎ、主に老人福祉施設を慰問するボランティア活動を始めました。手製のウクレレやハーモニカを演奏したり、皿回し、マジックなども行い、今年5月時点で慰問活動は通算530回を超えています。3月の震災以降は



施設で演奏
する金田一
勝太郎さん

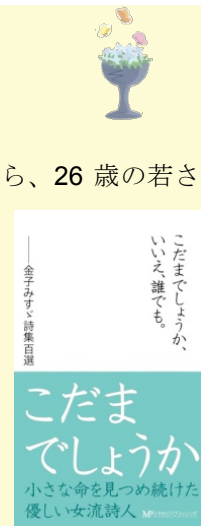
コラム～書籍紹介～

「こだまでしょうか、いい誰でも」

—金子みすゞ詩集百選— 宮帯出版

「若き童謡詩人の巨星」と賞賛されながら、26歳の若さでこの世を去った金子みすゞ。震災後、ACジャパンのCMにより再びその名が知られるようになっていきます。

本書では金子みすゞが遺した512編の中から、百選を厳選。見過ごされがちな何げない風景や森羅万象の本質を優しい視点で表現しています。



また、ベルガーディア鯨山では、蜜蝋、燭台、暖炉など、手作り工芸の体験、薪割り体験などができます。（要予約）詳細は下記ホームページでご覧になれます。

H P <http://www4.plala.or.jp/bell-gardia/>

電話、fax 0193-44-2544 ※電話はまだ通じていません。

（平成23年5月末現在）



「風の電話」
と佐々木格
さん
浪板海岸を
一望できる

沿岸の避難所を慰問する機会も増えています。

元々は、市内の保育園で演奏したのがきっかけで、知人の福祉施設長から依頼され慰問活動を始めました。当初、妻久子さん（75歳）は「カバン持ち」で同行していましたが、2年後にはマジックをマスターし、勝太郎さんと共演するようになりました。

演奏曲は昭和の懐メロを中心に600曲を超え、リクエストに応じて次々曲を演奏し、久さんはマジックを披露。夫婦仲の良さが、抜群のコンビネーションを生んでいます。

「施設の方は公演を楽しみにしていて、歌詞カードの表紙にぬり絵を貼って作ってくれているんです。今後も共に楽しんでゆけるよう続けたい」と語っています。

金田一さんの連絡先は0198-62-3722（電話、fax）

岩手在住のシニアによるブログ

前号に引き続きブログを紹介します。

『花ってどうしてこんなに美しいの』

http://blogs.yahoo.co.jp/tutuji_shakunage

花、つつじ、しゃくなげなど植物の話題を掲載しているブログです。

『猫のチビ』

<http://d.hatena.ne.jp/tebike/>

盛岡市在住のtebikeさんの趣味、家庭菜園、盛岡などの話題を掲載しています。

